



「トトローメーのある家は苦勞するから長男には嫁がないように」といわれ、三男の方と結婚しました。先日、親族会議があり、トトローメーを持つはずのない三男である主人が、若くして亡くなった主人のおじいさんの弟さんのトトローメーを持ちなさいということになりました。沖繩で次男や三男がトトローメーを持つ話なんて聞いたことがなく、この間違いを次回の親族会議で正したいのでご指導ください。主人の兄は、長男が沖繩に、次男は東京に住んでいます。お義父さんは次男、おじいさんは長男です。ちなみに、お義父さんやおじいさんの兄弟は、皆さん亡くなっています。(Oさん 宜野湾市40代女性)

「トトローメーのある家は苦勞するから長男には嫁がないように」といわれています。今回の相談のようなことで悩まれている方々は、沖繩にたくさんおられますので、わかりやすくご回答させていただきます。



「トトローメーのある家は苦勞するから長男には嫁がないように」といわれています。今回の相談のようなことで悩まれている方々は、沖繩にたくさんおられますので、わかりやすくご回答させていただきます。

トトローメーは長男だけが持つもの？

トトローメーは、代々、クワン・マグワー(子孫)に受け継がれていくものです。これは、儒教という中国の思想に影響を受けている考え方で、親孝行・祖先供養の二環として、ウヤ(親)やウヤファーフジ(先祖さま)を丁寧

に敬うことは、生前・死後に問わず、沖繩ではとても大切なことだと言ひ伝えられています。

その中心は、親族をまとめる長男の家系にあるといい、ここからOさんが耳にされた「トトローメーのある家は苦勞する」とのご意見も生まれてくるのでしょうか。しかし、沖繩では、長男のご家庭だけにトトローメーがあり、次男や三男以降のご家庭にはトトローメーがないのかというと、決してそうではない現状があります。

トトローメーの継承と  
ウンチケー(案内)

沖繩では、長男がトトローメーを持つ、いわゆる継承する対象は、長男の親(両親)、その親(両祖父母)、またその親(兩曾祖父母)となり、父方や祖父方に限定される直系の「シジ(血筋)」「家系」を中心としています。

このことから、長男のみがトトローメーを持つという錯覚に陥りがちですが、未婚でお亡くなりになったり、ご夫婦間に後継者が不在でお亡くなりになったご兄弟姉妹がおられるとき、長男は直系のシジを継承するため、この直系ではない方々のトトローメーは、次男や三男以降が継承するということとなります。

そのほかにも、次男や三男以降のご家庭でお亡くなりになるご家族があるとき、新しくトトローメーをウンチケー(案内)に入仕(入仕)することになりますので、次男や三男以降のご家

庭にあってもトトローメーは存在することになります。

嫡子腹と次男腹と  
三男腹以降

さて、今まで、おじいさんの弟さんのトトローメーは、おじいさんの次男であるお義父さんがお持ちになられていたのではな

いでしょうか？  
このようなトトローメーの継承方法を「嫡子腹の次男腹の継承」「長男の次男がトトローメーを持つ」といいます。今回のOさんのご相談は、この考え方の典型的な事例になるかと思

います。これは、おじいさんが長男であるため、おじいさんのトトローメーはおじいさんの長男が持ち、おじいさんの弟さんのお義父さんが持つという、長男方のシジを維持していくシジタダシ(血筋正し)によるものとされます。

るご主人が持つようなお話になったのかもしれない。

相談へのご回答ですが、次回も親族会議があるようですので、まずは目上の方に、「次男のお兄さんがお持ちになるのでは？」とお尋ねしてもよいのではないのでしょうか。

その後、諸事情によって三男であるご主人がトトローメーを持つというご意見が多数を占めるようでしたら、おじいさんの弟さんのご命日から、三三三回忌というウワイスコー(終わり焼香)最後の「法事」を間もなく迎えるか、もうすでに終えられているかという年数だと思ひますので、十分にご供養はなされていると判断して、ご寺院さまなどへの永代供養が可能かどうかムンナレー(物置)されてみてはいかかかと思ひます。つまり、お持ちになれないようでしたら、お持ちにならない方法もあるということになります。

